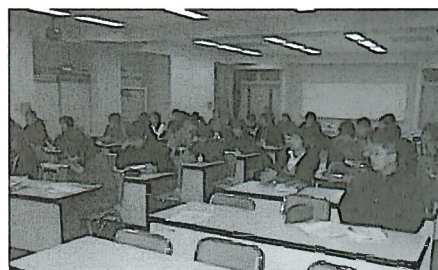


参加人数：マテリアルコース3年生 45名

内容を以下にまとめる。

- ・ 地球環境の現況、今後の予測及び課題について
- ・ 排煙脱硫の必要性和現状、実プロセスの説明、問題点
- ・ 排煙脱硝における触媒技術の説明と今後の課題

学生たちも環境保全について日常の中で考えて入るものの、普段の講義と多少方向性の異なった講義であったためか、学生からの質問は多くはなかったが、レポートにあるように、学生たちもいろいろ考えが深まり、大変有意義であったといえる。



真剣な表情で講演を聴く学生たち

### 3. 学生の感想より

学生の感想はどれも大体同じであり、講演を聴いて環境について理解と関心が深まったということである。以下にいくつかを示す。

- ◎ 今回の特別講演は、排ガス中の硫黄酸化物除去(排煙脱硫)技術の開発、窒素酸化物に関する規制と対策技術についての話であった。(中略)難しそうでよく分からなかったが、その経緯からの教訓や重要なことは参考になると思った。今回のことをこれから生かしていきたい。
- ◎ 今回、横溝忠昭先生の講演を聞いて、排煙脱硫、脱硝技術の原理および開発について学ぶことができ、大変ためになったと思う。普段扱わない生産過程において生じる排ガスについて詳しく知ることができたこと事は、とても新鮮だった。排ガスは、大気汚染の主要因となっており、以前はたびたび公害として被害を被ってきたため排煙脱硫、脱硝を考慮し、対策をたてることの重要性を改めて認識させてもらった。(後略)
- ◎ (前略)これらのような装置を作る際は、経済性、機能性などを両立しなければならないのでとても大変だということが講演を聴いて改めて確認できました。私も環境問題について多少興味があるので、将来溝口先生のように環境のことを考えた仕事をしたいと思いました。

## 交通社会実験の計画・実務とその展開

(有)まち交舎 舍主 大澤雅章

社会環境工学科 1年対象 担当教員：田中尚人

### 実施概要

1月29日(月)3時限目(12:50-14:20)「社会の基礎実験(1年生配当)」においてもものづくり事業による特別講演会「交通社会実験の計画・実務とその展開」が開催されました。

交通まちづくりをご専門とされている(有)まち交舎の大澤雅章氏を講師に迎え、「交通社会実験」と題して、ご講演頂きました。都市計画と交通計画を繋ぎ、人々の交通行動やまちづくりを計画するコンサルタントとしての立場から、実際の現場でのお話など、とても興味深い内容の講演で、学生たちも熱心にノートを取って拝聴しました。

特に、平成14年1月に大分県湯布院町(現：由布市湯布院町)において、大澤先生が手がけられた日本初のパッケージ型交通社会実験に関しては、映像作家が作ったVTRを用いて、現場での苦労や計画と実際の違い、交通社会実験の意義などをお話頂き、ものづくりの臨場感を味わうことができました。

学生たちは、「まちづくり」や「コンサルタント」、「技術士」など、学科に入学した動機に触れる講演を聴くことで、学習の意識を再認識したようでした。講演後、大澤先生のもとへ質問にうかがう学生の姿もみられ、大澤先生は引き続き4時限目の演習にも参加し、熱心に学生たちを指導して下さいました。



## 私のしごと(栗生総合計画事務所)2003以後 長崎から東京

栗生総合計画事務所 代表取締役所長 岩佐 達雄

建築学科3年次対象 担当教員：両角 光男

### 実施概要

この特別講演は、環境システム工学科(建築系)の3年次授業科目である「建築設計演習第四」の一部と